

舟ヶ谷の城山（ふながやのしろやま）

舟ヶ谷の城山は、今川一族で新野領主新野左馬助公の居城と伝わる城である。

昭和45年（1970）、鈴木東洋先生により「城山」の字名から城跡が確認され、47年（1972）静岡古城研究会が調査を行い、縄張り図が作られた。

現在は、大規模農道工事や採土により、城の中心部分が残されていない。

城山の外周部残存遺構（平成4年鈴木東洋作図）によれば、④⑦⑧⑪⑫は堀切、⑤⑥⑨⑩は横堀である。本城跡は、多くの堀切を持つ点に特色がある。現在は採土により残っていないが、かつては、本曲輪、二の曲輪は土塁で囲まれ、堀切で守れていた。

本曲輪には、南と東に低い土居を構えた帯曲輪が付き、尾根に沿って北には北曲輪、西南には西出曲輪が配されていた。

写真1は、本曲輪より北東方向の大規模農道を望んでいる。左隅の三角形の白く見える所は、削られた山の斜面でその手前に新しく出来た農道がある。写真中央のこんもりとした茶畑でない所は、井戸跡の東側の土塁である。

写真2は、二の曲輪東側の土塁である。

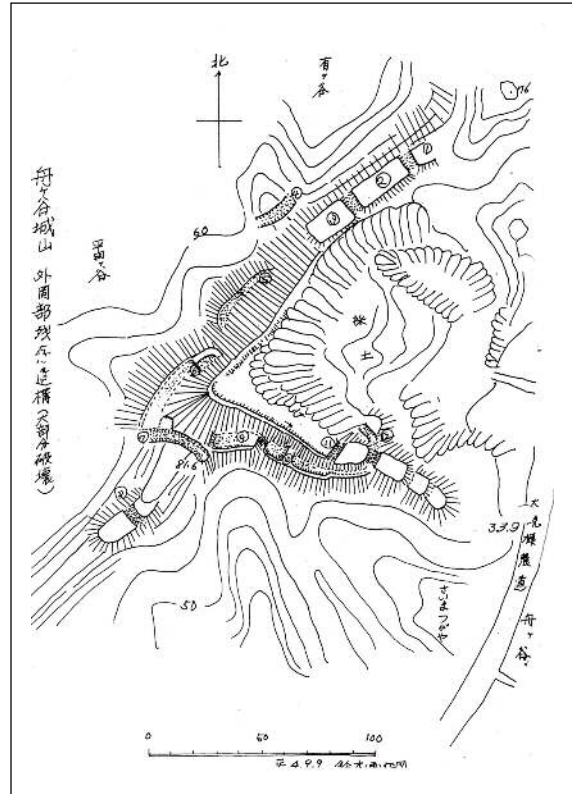


写真1 s 52.7.14 鈴木東洋先生撮影

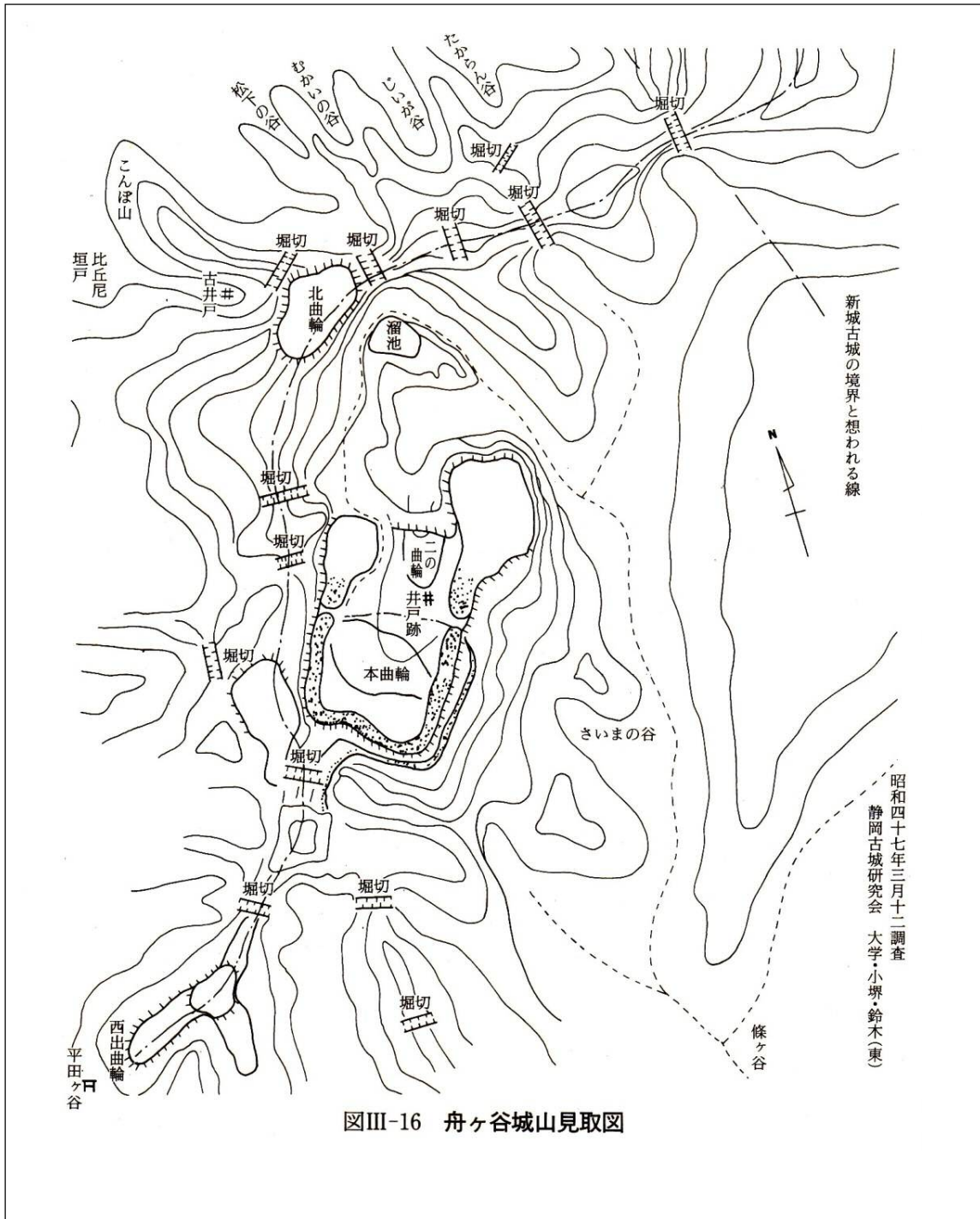


写真2 s 52.7.14 鈴木東洋先生撮影

現在の遺構は、新野左馬助公の時代の遺構ではなく、山城として利用された最終的な形を残すものである。戦国期、特に天正初期、高天神城を中心とした武田・徳川両軍の攻防の頃、武田軍により改修されたものと考えられている。

※引用文献『城きちがいの寝言』鈴木東洋先生

『浜岡町史 資料編 考古』平成 18 年 御前崎市



新城古城の境界と想われる線

昭和四十七年三月十二調査
静岡古城研究会 大学・小堺・鈴木(東)

図III-16 舟ヶ谷城山見取図